

Regarding the Degree of Differentiation in Esophageal Squamous Cell Carcinoma and Micrometastasis to the Lymph Nodes

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 朝倉, 孝延 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002351

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2129 号

Regarding the Degree of Differentiation in Esophageal Squamous Cell Carcinoma and
Micrometastasis to the Lymph Nodes

(食道扁平上皮癌の分化度と微小リンパ節転移について)

朝倉 孝延 (あさくら たかのぶ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、胸部食道扁平上皮癌の診断で3領域リンパ節郭清を伴う食道根治切除術を施行した症例についてHE染色による病理組織学的検査に加えてCK13を用いて免疫染色を行い、分化度によるリンパ節微小転移の頻度、予後の関係について検討し、これまで食道扁平上皮癌に関して述べられてくることのなかった分化度によるリンパ節転移頻度と予後に差がある可能性が示唆された臨床的に意義ある論文である。

対象は2000年に順天堂大学医学部附属順天堂医院食道・胃外科で根治的食道切除を施行された食道癌80症例の内、術前化学療法や術前化学放射線治療を行っておらず、組織型が分化型扁平上皮癌(高分化型もしくは中分化型)で系統的3領域リンパ節郭清が行われ、従来の病理組織学的検査でリンパ節転移が10個以上の非常に進行した食道癌を除き、予後追跡可能であった本研究に同意を得られた25症例とした。

高分化型と中分化型の症例で研究を行ったが、高分化型の症例で有意に微小リンパ節転移が多かった($p=0.048$)。微小リンパ節転移陽性症例と陰性症例で生存曲線をKaplan Meier法で比較したところ微小リンパ節転移陽性群で有意に予後不良であり($p=0.002$)、分化度による生存曲線の比較においても高分化型群が中分化型群より有意に予後不良であった($p=0.031$)。

本研究では胸部食道癌の高分化型・中分化型の症例を対象としたが、今後、低分化型や頸部食道癌、腹部食道癌の症例なども加えて、これまで食道扁平上皮癌に関して述べられてくることのなかった分化度による着床・増殖の相違点の検討を行っていく上で基礎となる研究となった。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。